令和８年度　　**2学年　授　業　改　善　推　進　プ　ラ　ン**　　小平市立小平第一小学校

	課題：児童の実態・学習状況，指導の実態	改善プラン：課題改善の方針・具体的手立て
国　語	○自分の経験や考えをすすんで話す児童は多いが、話す順序がばらばらになったり、人の話を最後まで聞いたりすることに課題が見られる。	☆話型を使って順序立てて話す練習をすることで、必要なことを選んで分かりやすく伝える力を育てる。合わせて、聞くときの約束を明確にし、友達の話をしっかり聞いて振り返る習慣を身に付けさせる。
	○相手に伝わるよう、場面や相手に応じた声の大きさや速さで話す力を育む必要がある。	☆互いの話に関心をもてるよう、話題を工夫し、興味をもったところや感心したところを伝え合う活動を取り入れる。一人一台端末を活用した交流活動を取り入れて、伝え合う活動の幅を広げていく。 ☆ペアや少人数でのやり取りを通して、相手を意識した話し方を練習する。
	○文章の内容と自分の経験を結び付けて考えることが難しく、感想がうまくもてない児童がいる。	☆登場人物の気持ちや場面を自分の生活と比べながら読む活動を取り入れ、共感する力を育てる。自分の経験を話したり聞いたりする中で、感想をもつきっかけを広げていく。
	○長音、拗音、促音、撥音の正しい表記や助詞（は・を・へ）の使い方について理解を深める必要がある。	☆長音・拗音・促音・撥音や助詞の使い方については、実際の文にふれながら音読や書き写しを通して正しい表記に慣れさせる。間違いやすい言葉を取り上げて比べる活動を行い、使い方の違いに気付けるようにする。
算　数	○繰り上がりや繰り下がりのある簡単な計算を十分に身付けさせる必要がある。	☆繰り上がりや繰り下がりの意味を具体物や図を使って繰り返し確かめる活動を行い、計算のしくみを理解させる。筆算の手順については、声に出して手順を確認したり、操作の流れを順番に整理するカードや掲示物を活用したりして定着を図る。
	○自分で考えて問題を解いたり、どう考えたかを上手に説明したりする力を身に付ける必要がある。	☆児童が自分の考えを言葉や図で表現する機会を増やし、具体的な問いかけやペアでの説明活動を通して考えを伝える力を育てる。また、考え方の例やモデルを示して理解を深める。 ☆具体物を操作する活動等を多く取り入れ、理解を深めていく。
生活 ひろば	○生き物や植物、地域の人や場所に興味をもち、意欲的に活動に取り組む児童は多いが、自ら課題を見付け、試したり比べたりしながら気付きや考えを深めることに個人差が見られる。	☆生活ひろばの環境を生かし、生き物の飼育や植物の栽培、ものづくりなど、児童が自ら選び、試行錯誤しながら活動できる場を充実させる。活動の過程を大切にし、「試す・気付く・改善する」を繰り返すことで、主体的に学ぶ力を育てる。
	○活動の中で感じたことや考えたことを友達や地域の人と伝え合う経験が十分ではなく、対話を通して自分の考えを広げたり深めたりする力に課題が見られる。	☆観察カードや写真、動画、一人一台端末などを活用して活動を記録し、国語科と関連させながら、自分の気付きや考えを言葉で表現する力を育成する。また、振り返りを通して学びを整理し、次の活動への見通しをもてるようにする。
	○身近な地域への関心は高いものの、人・もの・こととの関わりを自分の生活と結び付けて捉えたり、学んだことを次の活動へ生かしたりすることに課題がある。	☆ペアやグループ、学級全体で対話する場を意図的に設定し、友達や地域の人との交流を通して多様な考え方に触れ、自分の気付きや考えを更新しながら学びを深められるようにする。 ☆学校や地域を学びの場として積極的に活用し、人・もの・こととの関わりを広げる体験を充実させる。実際の体験に加えて地図アプリや写真・動画なども活用し、地域の特色やよさに気付き、愛着や親しみを深められるようにする。
音　楽	○鍵盤ハーモニカの演奏には積極的に取り組む児童が多いが、技能には差があり、タンギングや指使いの技能を身に付ける必要がある。	☆タンギングや指使いの基本動作を分かりやすく示し、ゆっくりとした練習や反復練習を取り入れる。個別に声掛けや手本演奏を行い、段階的に技能を身に付けられるよう支援する。
	○身近な楽器に親しみ、自分の思いを表現することができる。そのための技能に個人差が見られる。	☆楽器の音色の違いを楽しむことができるように、様々な楽器を体験する機会を多く設ける。拍の流れにのってリズムよく演奏することに慣れ親しむことができるように、手でリズムを打ったりする活動を取り入れる。 ☆友だちと音やリズムを合わせる活動を通して、互いの表現を認め合いながら音楽の楽しさを味わえるようにする。
図　工	○児童一人一人が自分の思いやイメージをもって表現活動に主体的に取り組めるような導入の工夫を図る必要がある。	☆写真や実物、絵本などを提示し、児童が表現したいことをイメージしやすい導入を工夫する。 ☆初めての用具や素材に触れる際には安全面を重視し細やかな指導を行う。配慮を要する児童については事前に情報を共有し、特に安全に配慮する。
体　育	○体を動かすことが大好きで意欲的に取り組む児童が多い一方で、技能の習得に個人差がある。	☆基本的な動きやバランス感覚を養う簡単な体幹トレーニングやゲームを取り入れ、楽しみながら技能を習得できるようにする。
	○体を動かすことに消極的な児童も運動することが楽しいと感じられるような場を作る必要がある。	☆友達と動きを見合ったり、作戦や工夫を話し合ったりする活動を取り入れ、自分の考えを伝えたり相手の考えを生かしたりする力を育てる。 ☆簡単なきまりや、場を選択したりできるよう児童が自分で選択して主体的に取り組めるような授業づくりをする。
道　徳	○登場人物の気持ちは考えられるものの、自分自身の生活と結びつけて振り返る機会を充実させる必要がある。	☆登場人物の気持ちや行動と自分の経験を結びつけて考える発問や活動を取り入れ、自己との関わりを意識できるようにする。
	○相手の立場に立って物事を考えることができるように、授業展開を工夫している。	☆児童の実態に合わせた指導方法を工夫する（役割演技・動作化・表現活動等）や話し合い活動を取り入れることで、様々な立場に立って考えたり、友達の多様な考え方に触れたりする機会を意図的に設定する。 ☆生活ひろばや地域との交流での経験を振り返り、自分や友達、地域の人との関わりについて考える活動を通して、思いやりや感謝の心を育てる。